

研修目標と研修内容について

職種名「薬剤師レジデント」

1 概要

薬剤業務に必要な基本技術の習得、がん化学療法、がん患者の症状緩和のための薬物療法、がん患者の感染症治療のための薬物療法、輸液・栄養療法の支援に関する知識や技術の習得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成する。

2 研修での到達目標

1) 一般目標

薬剤業務全般に関する基本的技術の習得を経て、がん医療に精通した薬剤師となること

2) 行動目標

下記の知識・技能の習得を目標とする。

- ・患者への薬剤情報提供ならびに支持療法に関する知識・技能の習得
- ・オピオイドの薬剤管理指導を中心とした緩和医療領域の薬物療法に関する知識・技能の習得
- ・注射用抗がん剤の無菌調製に関する知識・技能の習得
- ・抗生物質や免疫抑制剤を中心とした pharmacokinetic consultation に関する知識・技能の習得
- ・がん患者の輸液・栄養療法支援に関する知識・技能の習得
- ・緩和ケアチームや感染対策チームにおける薬剤師としての知識・技能の習得
- ・禁煙補助剤の薬剤管理指導に関する知識・技能の習得

3 実習内容

内服薬・外用薬および注射薬の調剤や注射薬の無菌調製、麻薬や向精神薬の管理等の基本的知識・技術の習得に加え、臨床腫瘍学講義などに参加して薬剤管理指導業務の準備を行った後、分野毎にローテーションとする方式で薬剤管理指導業務を行う。

カンファレンスやチーム医療に参加して、がん専門病院における臨床薬剤師に必要とされる基礎知識や臨床技術を習得する。

- a) 肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、造血器腫瘍、造血幹細胞移植などを中心とした薬剤管理指導業務の実習
- b) 注射用抗がん剤の無菌調製の実習
- c) 緩和ケアチームにおける薬剤師の役割について理解し、オピオイドの薬剤管理指導を中心とした緩和医療領域の薬物療法の実際を学ぶ
- d) 感染対策チームにおける薬剤師の役割について理解し、抗生物質の pharmacokinetic consultation を実習する
- e) NST における薬剤師の役割について理解し、輸液・栄養療法支援を学ぶ
- f) 卒煙支援を目的とした禁煙補助剤の薬剤管理指導を実習する